

2024年 夏季参加報告書

参加プログラム：ケント大学

参加時の学年：2年、学部：経済、学科：経営

今回の留学に参加する目的は、今の自分の英語力がどこまで実際の生活において使えるものなのかの確認、今後の英語学習において意識すべき点を発見することを主な目的としていた。海外に行くことは初めてではなかったが、海外の大学の寮で実際に1ヶ月間生活することは初めてであったため、不安な要素は多かった。日本でも家族以外の人とここまで長期間にわたって共同生活したことがなかったためその部分にも大きな不安はあった。実際にケント大学に着くと、周りの自然環境や落ち着いた雰囲気はかなり安心感を抱いた。大学は武蔵大学の何倍も大きく、これまで経験したことのないような広さのキャンパスだった。寮の周りには野リス、野ウサギ、野ギツネがいたりするなど日本の環境とは全く違う環境だった。初めの授業でも緊張していた。これまでは英語の授業を日本語で受けていることが多かったため、文法用語に関しても何から何まで英語で教わるのが初めてだった。しかし group 2 の担当をしてくれた先生のルイが緊張している僕たちを和ませるためにかなり明るい授業を展開してくれた。英語でよくわからないところ、これまで学んできたアメリカ英語と、教わっているイギリス英語との単語の意味の違いなどでわからなくなったことに関して質問しやすい環境を作ってくれた。一緒に授業を受けた神戸女子大学の人たちに対しては、初めのうちはなかなか会話するきっかけもつかめず、仲良くなれないでいた。しかし、ドーバー城の訪問時の課題としてグループワークで旅の V ログを作るという課題を通して仲良くなることができた。関東と関西でかなり雰囲気の違う人たちと関わることができたのも良かったと思う。授業の内容自体はかなり初歩的なところから、発音の練習、イギリスの歴史などかなり細かいところまで勉強することができた。



休日は友達と一緒に色々なところに行った。ロンドン、マーゲイト、イーストグリンステッドなどかなり色々な街に行くことができた。ロンドンはもちろん街並みも歴史があり、有名な建造物もたくさんあった。その分観光客が多く非常に混雑していた。特にビックベンの周りにはヨーロッパの観光地によくいるバラの押し売りをしてくるお婆さん、宗教系のことを叫んでいる人がいるなど、その他の観光地に比べると治安にやや不安があった。ロンドンを観光して驚いたのは、地下鉄が何時何分にくるという表示ではなく、あと何分という表示であったことだ。しかも次の電車が2分後など、まるで山手線のような本数が走っていた。地下鉄自体は乗る路線にもよるが、大江戸線のように小さいものもある。車両によっては酔っ払いの集団が歌ったりしていたから、乗る車両は考えた方がいいかもしれないと思った。バスも二階建てバスは景色もよく観光向けだが、次の停留所をアナウンスしてくれなかったため、いつ自分の降りたいバス停なのかかわからないことも多々あった。ロンドンではこうした日本の交通機関との違いが印象に残った。それ以外にはスターバックスにもかなり驚いたことがあった。飲み物を注文した時に一緒に名前を聞かれたことだ。商品を渡す時に名前を呼んで渡してくれるのは、イギリスならではのフレンドリーな対応だなと思った。今回の留学では様々な親切なイギリスの方々がたくさん会うことができた。多くの人から親切にされているうちに自分が日本で外国の人にそうした接し方ができていないことに気がついた。日本で外国の人に話しかけようと思っても、自分の英語が通じなかったらどうしようなど考えすぎてしまって、何もできていなかった。しかし、イギリスの人は何か困ってるそぶりをしたら躊躇わず声をかけてくれたし、積極的に話しかけてくれた。海外では日本人などのアジア人は差別されるという話はよく聞いていたが、特に今回の留学の期間中にそのようなことをされたことはなかった。

今回の留学を通じて、英語を話す時に間違えることを恥ずかしがる必要はないこと、どんな人であっても困っていたらできる限り助けるといふ人の優しさを学ぶことができた。日本で生活しているとどこか忙しなさというものを感じることも多くあるが、イギリスの人のみならず海外の人が持っている心の余裕は僕も持っていきたいと思った。だからこそ今後の海外への憧れはかなり高まった。それが留学なのか、就職なのかはまだわからないが、大学生のうちに少しでも英語のレベルを上げてたくさんの友人を作りたいと思った。留学の最後には、もう日本に帰たくないとの底から思うようになった。初めは戸惑っていたことが多かったが、1ヶ月イギリスで生活できたことは今となっては最高の思い出であり、人生においても最高の経験ができたと思う。